

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月12日

札幌市立羊丘中学校

1 本年度の重点目標

自分のよさが実感できる学校づくり

1 「学ぶ力」「健やかな体」育成のための教育の充実

2 「豊かな心」育成のための教育の充実

3 「学び続ける教員」としての資質・能力の向上

2 本年度の経営方針

・「教育課程」～つながり・特色のある編成～

・「生徒指導」～心のつながりが実感できる活動～

・「教科指導」～分かる・できる・楽しい喜びに満ちたつながりを実感できる学習～

・「生徒活動」～活発で「一人一人を大切にしたい」学級・学年の集団生活～

・「信頼される学校づくり」～発信（生徒と教師、教師間、学校と家庭・地域、学校間）～

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	1 ・基礎・基本の定着と学力向上を図るため、「分かる、できる、楽しい授業づくり」に努めている。	A	・今年度は、教師間でも授業を積極的に交流し合う機会を設け、指導力の向上を図った。また、全国学力・学習状況調査の結果(国語・数学)は、全ての観点において全国平均を上回っている。今後も「学ぶ力」育成プログラムに基づき、校内研修や日頃の実践交流を中心に授業改善や指導方法の一層の充実を図る。	A	A
	2 ・1人1台端末や視聴覚機器などを効果的に活用した授業を工夫している。	A	・各教科の授業や総合的な学習の時間を中心に、効果的な活用を推進している。約90%の生徒が学習の役に立っていると回答している。思考力や表現力を身に付け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていく手段として今後も研修を深めたい。	A	A
	3 ・説明責任を視野に、客観性・信頼性を高める評価活動を行っている。	A	・評定の算出方法については年度当初に生徒・保護者に説明し、理解が示されている。今年度は授業における評価の場面、評価規準の伝え方を工夫し、生徒自身が自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなるように努めた。今後も学習者である生徒が学習や発達を促せるものに改善していく。	A	A
	4 ・道徳の授業をはじめ、豊かな心を育む指導を充実させている。	A	・学校生活全体を通して計画的に指導するとともに、道徳の授業を要として生徒の発達段階や特性を考慮した創意工夫ある指導を行うことができた。自他の存在を大切にする心の教育の充実が本校教育の根幹であり、今後も学校全体で豊かな心を育む教育の充実を図っていききたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・学習指導においては、全国学力・学習状況調査の結果からも基礎学力が身に付いていると判断できる。引き続き、「学ぶ力」育成プログラムに沿って、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力」が高められるように各教科を中心に充実した学習指導をお願いしたい。また、道徳の授業をはじめ、外部の人材を生かした道徳講演会を今後も実施しながら、生徒の心に響く道徳教育を充実させてほしい。 ・1人1台端末については、考える時間を取ることや生徒間のやりとりでダイナミックさを得ることができる。自分で書くことの大切さとICT教育のそれぞれの利点を活用し、更に学習効果を発揮できるように活用方法を工夫してほしい。			
生徒指導	5 ・自主的、主体的に判断し実践する生徒の育成を目指した指導を行っている。	A	・育みたい生徒像を共有し、組織として同じ視点をもって指導する体制を確立する。保護者からは80%を超える肯定的な評価を得ているが、不十分と感じている生徒も多いので、今後も生徒を励まししながら、指導の工夫・改善に努めていく。	A	A
	6 ・生徒にとって学校が楽しく通える場となるよう、いじめ対策をはじめ、様々な場面で支援している。	B	・アンケート結果からは、昨年と同様で20%程度の生徒はそう受け止めていないというアンケート結果が出ている。学級経営や教育相談の充実をはじめ、生徒の立場に立って、楽しく通えるための「居場所づくり」の改善を図っていく。また、いじめ防止対策委員会を中心に組織的な対応を継続していく。	A	A
	7 ・挨拶や礼儀、きまりを守るなど、基本的な生活習慣を身に付ける指導を積極的に行っている。	A	・教師、保護者、生徒すべてのアンケート結果から高い達成度の結果が出ているが、挨拶の明るさやきまりの遵守については課題が残る。全体的には落ち着いた態度で学校生活が送れているので、声掛けをはじめ、生活面での指導を今後も積極的に行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・生徒同士の積極的なコミュニケーションの場が増えたり、各行事を学校全体で盛り上げたりなど、学校生活が生徒一人一人の充実した時間につながっていると感じた。今後は、「学校が楽しく通える場となっている」と受け止められない生徒への支援に更に力を注ぎ、互いの良さを認め合いながら生活できる居心地のいい学校づくりを進めてほしい。 ・「トラブル」と「いじめ」の境界線の難しさやSNS関係の問題など、いじめの問題は複雑化・多様化してきている。「トラブル」は乗り越えることで成長する機会になるが、「いじめ」は一生心に傷が残るものである。未然防止、迅速な初期対応を含め、いじめ防止対策委員会を中心に今後も組織的な対応を継続していただきたい。			

生徒活動	8	・学校行事は、生徒にとって魅力ある、本校らしいものになるよう工夫・改善されている。	A	・生徒の肯定的な回答は95%を超えている。行事を通して学校生活や学級・学年づくりの充実を図り、文化的行事や体育的行事をはじめ、本校の特色ある行事が生徒の様々な力を伸ばす機会となっている。今後も生徒や学校が成長する機会として捉え、行事の工夫・改善に努めていく。	A	A
	9	・進路指導やキャリア教育は、望ましい勤労観や職業観をもてる内容になっている。	B	・自己を理解し、的確な進路選択ができるように3年間を見通した事前学習・事後学習の工夫や充実を図る。また、教科や総合的な学習の時間、特別活動、日常生活などを通じたキャリア教育を展開していけるように横断的な取組を推進していく。	A	A
	10	・創意工夫を生かした教育の推進や特色ある学校づくりを目指し、教育活動を推進している。	B	・年間授業時数を確保しつつ、各行事や生徒会活動の活性化を図り、特色ある学校づくりを推進していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・授業時数の確保も必要であり、全体のバランスを考えて教育課程を編成することに苦労しているかと思う。行事や部活動などは、自分の在り方に気付き、他者との関わりを考えさせてくれる場なので、それもそれぞれの進路やキャリア教育へとつながることだと考える。「将来への夢や希望をもっている」と回答できる生徒が増えるよう、生徒がいろいろな場面で自主的・積極的に活動できるようサポートをお願いしたい。 ・各行事の取組や成果を通して、互いに高め合う機会が生徒にとって充実した時間となっていることを感じる。今後も、特色ある学校づくりを推進してほしい。				
開かれた学校	11	・学校情報の積極的な発信や学校公開の充実を図っている。	A	・情報発信における肯定的な回答は80%に満たない。学校の取組や現状などを保護者・地域の方々に理解して頂けるよう、保護者メールの活用や学校ホームページの更新に努める。また、学校公開日や各行事を自由に参観できる機会を確保していく。	A	A
	12	・学校関係者評価の実施を通して、学校の課題と改善の手立ての明確化を図っている。	A	・学校評価が確実に実践につながるように、次年度の計画段階からより一層機能させ、学習指導や生徒指導をはじめとした教育活動全体の改善に結び付くよう運用する。	A	A
	13	・地域人材を活用した教育活動を推進している。	A	・総合的な学習の時間(職業体験・上級学校訪問)や各種講演会において、ここ数年で構築してきた関係性やつながりを生かし、外部講師の積極的な活用を図る。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・学校からの情報発信(学校ホームページ・「すぐる」の活用など)や学校公開日をはじめ、保護者、地域の方が羊丘中学校の取組について更に知ることができるよう、より開かれた学校を目指してほしい。 ・外部講師の発掘は難しいかと思うが、地域の人材を活用した取組によって、普段とは違った環境の中で学ぶことの新鮮さや楽しさが次の学びへとつながっていくことがある。そのような機会をよりきっかけと捉え、生徒の学ぶ力を様々な角度から更に高めてほしいと思う。今後もぜひ継続していただきたい。				

【評価書の見方】

この評価書は、次の2つの評価が組み合わされた表になっています。

① 自己評価～本校教職員が、自分たちの取組を達成状況で表し、改善の方策を打ち出したもの。

② 学校関係者評価～学校関係者評価委員が、その自己評価が適切であるかどうかを評価したもの。

よって、学校関係者評価の結果がAである場合、学校が評価した結果や改善策が十分適切であることを意味し、学校関係者がその項目自体を評価したわけではありません。

【自己評価結果(達成状況)～A:十分である B:概ね十分である C:不十分である D:改善を要する】

【学校関係者評価結果(適切さ)～A:十分に適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切】